

劇場映画企画書

劇場映画『葬式の名人』

茨木市 市制 70 周年記念事業 / 茨木市全面協力作品

鳥村の前のガラスが
こぼれた。娘は恋うっせ
いんだ。娘は遠くへ叫ぶ
乗り出して、
うに、
驛長さんあん、驛長さんあん、
明りささげてゆつくと雪

雪國
国境の古いまんやうを
校けりると雪國をあらた。信
夜の底が白くなつた。
夜所、汽車が止まつた。
座席から娘が立つそ

企画意図

「文学」と「笑い」の街が生む、ユニークで豊かな群像コメディ

茨木市——大阪と京都の真ん中に位置し、古くからの文化的蓄積に恵まれてきた街。

この地に育ったノーベル文学賞作家・川端康成は、日本文学の美を世界に知らしめました。同時に、茨木は現在活躍する多くのミュージシャンやお笑い芸人を輩出した街でもあります。

この度、茨木市の市制70周年記念事業として、川端康成の傑作短編をモチーフに、群像コメディを作ります。世界的文学に胸を借りて、今を描く映画を作りたい！ そんな思いが、この企画の出発点です。

もちろん、観客間口の狭い「ご当地映画」にする意図はありません。

日本映画界の最高のスタッフとともに、世界中の人々に普遍的に愛されるような、笑いのなかにほろりと胸を打つ作品を目指します！

ストーリー

高校時代の同級生のお通夜——そこに集まったメンバーが体験したのは、これまでに見たことも聞いたこともない奇想天外なお通夜だった！

卒業から10年の時を経て、フシギなお通夜が笑いとともにあぶり出す、失われた友情、果たせなかった愛……。

川端康成が茨木で過ごした少年時代をもとにした『十六歳の日記』、茨木中学時代（現在の府立茨木高校）の思い出を描いた『師の棺を肩に』『少年』、そして少年少女のみずみずしい交友を描く掌編『バッタと鈴虫』、ユーモラスなエッセイ風の『葬式の名人』、魔界とも評される川端ワールドを堪能できる異色作『片腕』をモチーフとして散りばめた、オリジナル・ストーリーによる群像コメディ。

〔原案〕 川端慶成

1899年大阪生まれ。幼少期から中学生までを茨木市で過ごした。茨木中学（現在の茨木高校）の後輩に評論家の大宅壮一、小学校の同級生に政治活動家の笹川良一などがいる。茨木中学時代のことは、祖父の死を描いた『十六歳の日記』や寮生の後輩男子との交友を描いた『少年』に詳しい。数えの16歳で祖父を失い、天涯の孤児となった康成は、茨木中学在学中に文学者を志す。

小説家としてデビューした後は、横光利一らとともに海外の前衛文学の手法を取り入れた新感覚派の旗手として活躍。『伊豆の踊子』などの叙情したたる初期作から、代表作『雪国』を経て、戦後は源氏物語に代表される日本の美と幽玄の世界に沈潜し、『山の音』『千羽鶴』『古都』などで、日本文学の水準を世界に知らしめた。1968年ノーベル文学賞受賞。茨木市名誉市民。母校の茨木高校には、川端の筆による「以文会友」の石碑がある。



〔監督〕 樋口尚文

1962年生まれ。映画監督、映画評論家。高校時代から自主映画を監督し、大島渚、大林宣彦らに激賞され、登竜門のぴあフィルムフェスティバルほかに入賞。早稲田大学政治経済学部在学中に映画評論家としてもデビューし、以来『大島渚のすべて』『黒澤明の映画術』『実相寺昭雄 才気の伽藍』ほか単著多数。近著に『有馬稲子 愛と残酷の映画史』『映画のキャッチコピー学』『「昭和」の子役 もうひとつの日本映画史』。文化庁芸術祭、芸術選奨、キネマ旬報ベスト・テンなどの多くの映画賞の審査員を委嘱される。また、大学卒業後、電通に入社し、クリエイティブ・ディレクターとして30年にわたって膨大な数のTVCMを企画制作。2013年、オールスターの劇場用映画『インターミッション』で映画監督デビュー。

DVD VIDEO

秋吉久美子 / 香川京子 小山明子 水野久美
竹中直人 佐野史郎 佐伯日菜子 中川安奈
ひし美ゆり子 畑中葉子 水原ゆう紀 夏樹陽子
寺島咲 杉野希妃 上野なつひ
大島葉子

樋口尚文 監督作品

インターミッション
The Intermission

この観客たち。

何をしでかすか、

勝野雅奈恵 中丸シオン
森下悠里 奥野瑛太 森下くるみ
岡山天音 門脇麦 小野寺・グレン・光 玄里
与座重理久 大瀬康一 古谷敏 中丸新将
大野しげひさ 利重剛 樋口真嗣 / 染谷将太

脚本：樋口尚文 港岳彦 音楽：菅野祐悟

エグゼクティブ・プロデューサー：樋口尚文 編元助治 小坂恵一 プロデューサー：藤原謙之 アソシエイトプロデューサー：菅正朗 鈴木伸英 松本学 白石信彦 坂野かおり
撮影：町田博 照明：津島山誠 美術：都谷京子 録音：益子翠明 編集：山本憲司 ラインプロデューサー：井上淳 フォト：高信司 デザイン：小倉輝久 助監督：根木裕介

製作：オプスキュラ 東北新社 製作協力：ティーエフシープラス オムニバス・ジャパン ヒューマックスシネマ
協力：スター・チャンネル ファミリー劇場 ザ・シネマ ©2013「インターミッション」フィルムパートナーズ

【樋口監督からのメッセージ】

オリジナリティのある上々のシナリオがあって、その役柄にあった俳優をキャスティングする、というあたりまえのことが、今の日本映画界ではとびきりゼイタクなことになってしまいました。そんな純粋な意図とは別の、さまざまなしがらみによって、「意志」のない脚本と配役が決まり、おさなりにシネコンで上映されて消費されています。こういう映画を作るのは人生とお金のムダです。

実にまれなことに、今回、川端康成からお笑いまで実に幅広い文化を生む茨木市が、純粋で前向きな意欲のみで映画づくりを熱烈に応援してくれています。

そこにチャップリンの世界的権威である大野裕之さんが川端文学をモチーフにしたユニークで豊かな脚本を書き、私が映画とCMで長年ご縁を深めた日本映画の誇る名匠のスタッフの皆さんが一斉に「この指とまれ」で集まって来てくださっています。映画の神様が降りてきてくれそうな予感がします。

そして、私はたとえばロバート・アルトマンやウディ・アレンのようなウィットある群像劇がとても好きです。それは何よりキャストのさまざまな魅力を一堂に盛り込めるからですが、まさに校舎を舞台にしたグランドホテル形式のこの作品では、その楽しみを存分に味わえることでしょう。

【プロデューサー】榎 望

1988年に松竹映画部門に所属して以来、
制作にかかわった映画は脚本作品とあわせ40本以上、
受賞多数。

【主な作品】

「僕らはみんな生きている」(プロデューサー、1993年) 監督/滝田洋二郎。

出演/真田広之、山崎努他/ブルーリボン賞監督賞・主演男優賞

「岸和田少年愚連隊」(プロデューサー、1995年) 監督/井筒和幸。原作/中場利一。

出演/ナインティナイン他。受賞/ブルーリボン賞最優秀作品賞。

「あ、春」(プロデューサー、1997年) 監督/相米慎二。原作/村上政彦。

出演/佐藤浩市、山崎努他。受賞/パルム国際映画批評家賞、キネマ旬報ベストテン1位他。

「刑務所の中」(プロデューサー、2001年) 監督/崔洋一。原作/花輪和一。

出演/山崎努、香川照之他。受賞/報知映画賞作品賞他。キネマ旬報ベストテン2位。

「クイール」(プロデューサー、2004年) 監督/崔洋一。原作/秋元良平、石黒謙吾。

出演/小林薫、椎名桔平他。興行収入24億。

「血と骨」(プロデューサー、2005年) 監督/崔洋一。原作/梁石日。

出演/ビートたけし、鈴木京香他。受賞/毎日映画コンクール日本映画大賞他

「タイヨウのうた」(エグゼクティブプロデューサー、2006年) 監督/小泉徳宏。

出演/YUI、塚本高史他。

「ゲゲゲの鬼太郎」(エグゼクティブプロデューサー、2006年) 監督/本木克英。原作/水木しげる。

出演/ウェンツ瑛二、井上真央他。興行収入24億。

「花よりもなほ」(プロデューサー、2006年) 監督・脚本/是枝裕和。

出演/岡田准一、宮沢りえ他。

「駆込み女と駆出し男」(プロデューサー、2015年) 監督/原田真人、原作/井上ひさし。

出演/大泉洋、戸田恵梨香、樹木希林他。受賞/ブルーリボン賞主演男優賞他。

「母と暮せば」(プロデューサー、2015年) 監督/山田洋次、出演/吉永小百合、二宮和也他。

「花戦さ」(企画、2017年) 監督/篠原哲雄、脚本/森下佳子、出演/野村万斎他。



〔脚本 & プロデューサー〕 大野裕之

脚本家・日本チャップリン協会会長。2014年にチャップリン家と京都市の全面協力で製作された『太秦ライムライト』のプロデューサーと脚本を担当。第18回ファンタジア国際映画祭最優秀作品賞、ニューヨーク・アジア映画祭観客賞など国内外13の賞を受賞。京都大学在学中から演劇活動を開始、2008年に新歌舞伎座・御園座の演出で大劇場デビューし、石丸幹二主演の音楽劇で脚本・演出、『ライムライト』（2015年、東宝製作）の脚本を担当。チャップリン研究家として国際的に活動し、著書『チャップリンとヒトラー メディアとイメージの世界大戦』（岩波書店）で2015年第37回サントリー学芸賞受賞。2014年京都市文化芸術表彰受賞。2006年ポルデノーネ国際映画祭特別メダル受賞。



【スタッフ】

【撮影】 中堀正夫

実相寺昭雄監督とのパートナーで知られ、ロカルノ映画祭グランプリの『無常』（1970年）をはじめ、『哥』（1972年）『あさき夢見し』（1974年）『歌麿 夢と知りせば』（1977年）『帝都物語』（1988年）『悪徳の栄え』（1988年）『屋根裏の散歩者』（1994年）『D坂の殺人事件』（1998年）ほかほぼ全作品を手がける。『波の盆』（1980年）で芸術祭大賞、『幻の光』（1995年、是枝裕和監督）でヴェネツィア映画祭金のオゼツラ賞、『鏡の女たち』（2003年、吉田喜重監督）でカンヌ国際映画祭特別招待。

【照明】 牛場賢二

実相寺昭雄監督の『あさき夢見し』（1974年）、『帝都物語』（1988年）、『GONIN』（石井隆監督、1995年）『駆込み女と駆出し男』（原田真人監督、2015年）他多数。

【美術】 部谷薫子

『夏の庭』（1994年、相米慎二監督）、『SHALL WE ダンス？』（1996年、周防正行監督）、『バトル・ロワイアル』（2000年、深作欣二監督）、『壬生義士伝』（2003年、滝田洋二郎監督）、『インターミッション』（2013年、樋口尚文監督）、『リップヴァンウィンクルの花嫁』（2016年、岩井俊二監督）ほか多数。日本アカデミー賞最優秀美術賞、毎日映画コンクール美術賞受賞、紫綬褒章受章。

【音楽】 上野耕路

『ヘルター・スケルター』（2012年、蜷川実花監督）、『のぼうの城』（2012年、犬童一心監督・樋口真嗣監督）、ドラマ『火花』（Netflix）ほか多数。日本アカデミー賞優秀音楽賞受賞。

[スタッフ]

[編集] **大島ともよ**

寺山修司監督の『草迷宮』（1979年）、大島渚監督『戦場のメリークリスマス』（1983年、第36回カンヌ映画祭出品作品）、『御法度』（1999年、第53回カンヌ映画祭出品作品）他多数。

[音楽プロデューサー] **佐々次彦**

2001年『風花』（監督：相米慎二 / 音楽：大友良英）、2008年『おくりびと』（監督：滝田洋二郎 / 音楽：久石譲）、2010年『座頭市 THE LAST』（監督：阪本順治 / 音楽：プロジェクト和豪）、2013年NHK連続テレビ小説「あまちゃん」（音楽：大友良英）、2017年『あゝ、荒野』（監督：岸善幸 / 音楽：岩代太郎）ほか多数。

[劇中美術] **やまな**

マンガ家。主な作品に『西荻夫婦』『東京座』『コーデロイ』『ピアティチュード』ほか。『フレンチ・ドレスिंग』『ラマン』『王様とボク』は映画化された。

製作スケジュール

- 製作スケジュール

2018 年 夏撮影

2018 年 11 月 茨木市でプレミア上映

各国映画祭への出品

各国映画祭への出品と 2019 年の全国公開を目指します。

【樋口監督からのメッセージ】

今、日本映画の企画は似たりよったりで個性が失われているとよく言われますが、この映画はなかなかお目にかかれな
いユニークなもので、コメディもファンタジーも青春ドラマも、さまざまなものが詰め込まれています。これはまさに川端文学か
らお笑いまで幅広い文化を生んできた「茨木らしさ」に通ずるものでしょう。そのわくわく感に導かれて、珠玉のごときキャ
スト、スタッフが参加を表明し、茨木市は理想的な協力体制を組んでくれています。この稀有な実りある映画づくりに、
ぜひあたたかなご支援を賜れたらと切望いたします。